

2011 年度事業報告書・2012 年度事業計画書



認定NPO法人

多文化共生センター東京

Multicultural Center TOKYO

2011 年を振り返って

多文化共生センター東京は、荒川区三河島の旧真土小学校での 5 年目を迎えました。3 月 11 日の東日本大震災は、東日本に計り知れない被害をもたらしました。そしてまた時が経つにつれ、当センター東京の外国にルーツを持つ子どもたちのための教育事業にも影響がでてきました。

ひとつは生徒数の減少です。「たぶんかフリースクール」の昼クラスは学齢超過の子どもたちの学び場、居場所として作られ、生徒数は年々増加傾向にありましたが、新年度の生徒数は明らかに減少しました。

もうひとつは、中央線・総武線・小田急線・京王線等といった多摩地域での学齢超過生徒の要望にこたえるべく、8 月から新宿に「たぶんかフリースクール新宿校」を開いたことです。福生、小平等思いのほか遠くから来校する生徒が多く、新宿校がなければ通うのが大変な生徒が通うことができ、高校に進学できました。ただ、前述したとおり新しい生徒が減った影響で、なかなか採算ベースには合っていません。

また今年度は認定 NPO として認定されました。企業及び個人からの寄付の大幅増が見込めるはずでしたが、こちらも震災等の影響を受けました。スタッフの増員、生徒数の減少を乗り切ることができたのは、虹の架け橋事業の成功といいでしょう。その意味では公的資金が多文化にも導入された意味は大きいと言えます。ただこの助成は、主に外国籍の不登校・不就学の子どもたちを対象にしたもので、本来の当スクールが対象とする学齢超過生徒や、母国で中学を卒業した生徒は対象となっていません。外国にルーツを持つ来日の浅い子どもたちへの支援はまだ課題が山積しており、国や自治体の抜本的な支援が求められます。

子どもたちの高校進学については、新宿校で学んでいた生徒 2 名が、来日期間が短かった等の理由で、もう一年当スクールで学ぶこととなりましたが、両校合わせて合計 46 名が進学を果たしました。たぶんかフリースクールの担任・講師及びボランティアの担う活動は大幅に増えています。昨年度の課題であった担任・講師については仕事内容についての明文化がある程度までできたといえます。またボランティア活動については、自主的な活動の活性化により、ボランティア同士の親交を深める活動も多くなっています。また、受験期にはこれまで以上にスタッフ、担任、ボランティアの連携が図られるようになりましたが、担任、一部ボランティアについてはやはり負担増が目立ちます。

最後に、今年度は先生方の子どもや教材についての情報の共有化、教育内容の充実化を図るため、「教科会（日本語・英語・数学）」「進路部会」「勉強会」の部会をつくりました。まだまだ体制の整備に必要なことはたくさんありますが、体制を整えることで先生方の自主的活動の活性化につながっているといえます。

多文化共生センター東京代表理事 王慧謹

2011 年度事業報告

外国にルーツを持つ子どもたちのための教育事業

■たぶんかフリースクール

日本の中学校に入れず、学ぶ場や居場所のない子どもたち（学齢超過生と中学卒業者）や、来日期間が浅く日本語の初期指導が必要な子どもたちに対して、毎日通えて日本語と教科を勉強できる学びの場と居場所を提供し、最終的には高校進学につなげることを目的とし実施した。また、不就学や不登校の子どもたちを公立学校就学へ繋げるための「虹の架け橋事業（定住外国人の子どもの就学支援事業）」（※以下「虹の架け橋教室」）も実施した。



たぶんかフリースクール新宿校授業風景

生徒数：本校 41 名 新宿校：18 名 高校進学者数 46 名

講師数：本校 担任 4 人 講師 28 人（日本語・教科等） 新宿校：担任 1 人 講師 12 人

内容：子どもたちのための日本語指導と教科指導・高校進学のためのケア

◆朝クラス：9:00～12:00 週4日（本校）

荒川区「ハートフル日本語適応指導（通室による初期日本語指導）」対象生徒、及び義務教育段階の不就学や不登校の子どもたち（虹の架け橋教室対象生徒）が学んだ。

◆昼クラス：13:00～16:20 週4日（本校・新宿校）

学齢超過の子どもを主な対象に、読み書き、読解力・思考力、高校入試を視野に入れた日本語、教科（英語・数学）、作文・面接指導などの高校入試サポートを行った。8月の夏季集中講座では去年と同様、たぶんかフリースクールに所属する生徒以外にも、普段は昼間の公立中学に通う中学3年生も参加し、昼夜クラス合同で授業を行った。

◆夜クラス：18:00～20:10 週2～4日（本校・新宿校）

中学校3年生の受験生を主対象とし、高校受験に向けて日本語や教科（英語・数学）を学んだ。本校では荒川区「ハートフル日本語適応指導（補充学習指導）」対象生徒（小学5年生～中学3年生）の日本語指導も行った。

◆通信制代々木高校 多文化共生コース（本校）

外国にルーツのある子どもたちで、高校中退や母国で高校1、2年生を修了者対象に、通信制高校での学習をサポートし、3名が通信制高校を卒業した。

◆「虹の架け橋事業（定住外国人の子どもの就学支援事業）」（本校）

（文部科学省の拠出を受けた国際移住機関（IOM）から受託）

義務教育段階の不就学・不登校の子どもたちが、日本語や教科（英語・数学）

高校入試のサポートを受け、6名が在籍校へ復学、6名が公立小・中・高校就学につながった。

■部会（教科会・進路部会・勉強会）

講師間の情報の共有化、教育内容の充実に向けて「教科会（日本語・英語・数学）」「進路部会」「勉強会」の部会を開催した。

■キャリア教育プログラム

2008年よりGap.inc様からご支援を受け、たぶんかフリースクール生徒が将来の夢を考え、次の進路に実際につなげる「キャリア教育プログラム」を実施した。このプログラムにより、今年度は本校では担任を4人採用することが出来、以下のキャリアイベントを行うとともに、生徒や保護者との面談（10月二者面談・12月三者面談）、進路に関する作文のほか、高校見学や説明会への生徒の引率、日々の生徒対応、受験指導などきめの細かいサポートを行うことが出来た。

◆11月16日 Gap、バナナ・リパブリック職業体験

22名の生徒がGAP 渋谷店、銀座店、原宿店、BANANA REPUBLIC 六本木店の4店舗に分かれて職場体験を行った。バックヤード業務体験では、洋服のたたみ方や仕分けの仕方を習い、接客体験では実際に店内でお客様の前に立ち、接客を体験した。午後にはみんなで集まって話し合い、発表を行った。



◆11月17日 ドリームツリー出張授業

上記「キャリア教育プログラム」の一環として、(株)アルファビート様より中国出身の講師と、海外経験のある講師の2名をお招きし、それぞれのキャリアや夢について話して頂いた。その後、自分自身がこれまで体験したこと、好きなこと、得意なこと、将来の夢や仕事などをドリームツリーそれぞれ書いて、最後にみんなの前で発表した。



■ 教育相談

主に電話およびセンターでの面接による相談で、来校での相談件数は本校 95 件、新宿 23 件、合計 118 件の教育相談に対応した。相談内容は日本の小中高への編入に関する相談及び日本語、学習指導についての相談が多いが、子どもの来日前での相談も増えている。また、「たぶんかフリースクール」の保護者から経済的に授業料の支払いが困難になっての相談がますます増えている。

卒業生からは大学進学についての相談が増えた。高校 2 年時からの相談会の設定や、大学入試関係の資料の充実が求められている。市区国際交流協会などが実施する「リレー専門家相談会」に 3 回、教育に関しての専門家相談員を派遣した。

■ 調査活動

「東京都の外国ルーツの子どもたちの高校進学に関する実態調査報告書」を基に、東京都教育委員会及び東京都民主党文教委員を中心に外国にルーツを持つ子どもたちの進学の実態について説明する機会を持った。

■ 日本語を母語としない親子のための高校進学ガイダンス

武蔵野市国際交流協会、ピナット、OCNet、IWC、八王子国際協会、CCS、多文化共生教育研究会、多文化共生センター東京、CTIC の 9 団体の構成となる実行委員会形式で多言語による高校進学ガイダンスを開催した。

◆開催日・場所：

6 月 26 日（虎の門）、7 月 10 日（武蔵野）

10 月 2 日（広尾）、10 月 30 日（八王子）

11 月 6 日（品川）（うち虎の門と広尾の 2 回分の事務局を当センターが担当）

6 月 26 日は 98 名（49 家族）、10 月 2 日には 93 名（43 家族）、6 回あわせて 385 名の参加があった。（2010 年度は 5 か所合計で 427 名）ガイダンスでは、外国出身の中学生や学齢超過の子どもとその親に対して、学校の制度や高校進学についての具体的な情報を提供すると同時に、ボランティアや NPO による学習支援等につなげ、ガイダンス後のフォローも行った。

その他、新宿区未来創造財団が単独で 2 回のガイダンスを実施し、うち 1 回の運営を当センターが受託した。2012 年 1 月 15 日には高校進学ガイダンス主催者交流会が千葉県で行われ、当センターからも 3 人が参加した。



■ 子どもプロジェクト

(ボランティアによる日本語と教科の学習支援と居場所づくり)

週に一回、ボランティアベースでの日本語と教科の学習支援を基本的に個別対応で行い、受験期には面接練習などのサポートも行った。

日時：毎週土曜日 - 15:30~17:30

参加人数：約 60 人 (合計)

ボランティア人数：約 50 人

※1回の参加者数子ども 10~30 人

ボランティア 10~20 人



■ アクティビティ

2011 年度もフリースクール講師・ボランティア、企業のご協力を頂き、校外学習やイベントなどのアクティビティを行った。

1 8月18日 国立西洋美術館見学

フリースクール朝クラスで授業の一環として、生徒 9 名、講師 6 名が国立西洋美術館で、18 世紀以降の西洋絵画、美術鑑賞をし、日本語で発表しあう機会を設けた。

2 9月17日 パナソニックセンター社会見学

2010 年度に UBS グループ様より頂いた寄付金を活用し、フリースクール生徒 25 名、UBS 社員ボランティアや当スクール講師等合わせて 13 名で社会見学及び水上バスで浅草まで行き、浅草観光をした。



3 12月17日 クリスマス会

フリースクール生や子どもプロジェクトの学習者を中心に、フリースクール卒業生や、卒業生の友達、ボランティア等総勢 100 名近い参加者で、ビンゴ大会、ジェスチャーゲームなどで楽しんだ。

4 3月16日 新宿校卒業パーティー

新宿校の生徒・講師約 20 人が参加し、みんなで料理をつくったり、メッセージを交換しあった。

5 3月17日 卒業式

本校、新宿校のフリースクール修了生の門出を祝い、講師、ボランティア、現役の中学生や過去の卒業生など 70 人近くが参加した。



評価と課題

教育事業の拡大に伴い、スタッフの3名増員を予定していたが、予定よりも生徒数が増えず、最終的には荒川と新宿と2名の増員でとどまった。荒川区の本校と新宿校の2校体制となり、2校間の関係や先生方の連携等、新たに解決すべき課題が増えた。特にスタッフミーティングや先生方のミーティング時の連絡、調整の遅れが目立った。来年度に向けて組織系統の明確化が課題となった。

① 荒川区教育委員会との連携

荒川区との連携による「ハートフル日本語適応指導事業（通室による初期日本語指導）」は2年目に入った。外国から来日して荒川区の中学校に編入した中学生が週4日、1日3時間「たぶんかフリースクール」に来て、集中的に日本語を学んでいる。さらに2008年に荒川区の小学校5年～中学3年の初期指導修了者を対象とした「ハートフル日本語適応指導事業（補充学習指導）」と合わせて、荒川区の中学生は最大5カ月の日本語指導をしている。荒川区の中学校とも連携が取りやすくなり、補充学習指導への移行もスムーズで、初期指導を終えた生徒は100%補充学習指導を受けられることとなった。また、5カ月の補充期間終了後も、フリースクール夜クラスで学ぶ中学3年生が増えた。

継続的な学習の成果として、今年度当スクールで学んだ中学3年生の受検は従前に比べ、生徒の希望する高校への進学が飛躍的に増えた。荒川区との連携が成功していると言える。また、ハートフル担当講師3名が荒川区内の中学校への訪問を含め、連絡調整が比較的スムーズになり、中学校側からの当センターへの評価はより高くなっている。

② 「虹の架け橋事業（定住外国人の子どもの就学支援事業）」（文部科学省の拠出を受けた国際移住機関（IOM）から受託）

昨年度は、東京での義務教育段階の不就学・不登校生徒の所在については、現状がなかなかつかみにくい状態にあり、「虹の架け橋事業」の委託を受けるに当たり、慎重をきしてきたが、荒川区でのハートフル日本語適応指導がスムーズになり、保護者・生徒・学校との情報交換がスムーズになり、対象生徒の早期発見が可能になった。また、教育相談を経ての問い合わせも増え、不就学・不登校生徒が本教室に入室するようになった。日本語の習得を中心に、後半は教科についても学習を進めいた。フリースクール生のアドバイスや交流も影響もあり、すべての生徒が公立学校に入学・復学した。

③ たぶんかフリースクール（昼クラス・夜クラス）

4月は生徒減が目立ったが、8月の夏季集中講座以降は生徒がある程度回復した。また、埼玉県の高校入試は5教科受検1回、千葉県は5教科受検2回となり、外国にルーツをもつ子どもたちにとっては、高校受験のハードルがより高くなっている。「たぶんかフリースクール」の都外受験生は、少数ではあるが東京都への引っ越し、あるいはアルバイト先である東京都での受験を選択した。日本の中学校に在籍ができず、5教科の受験は困難が多すぎる結果である。

高校受験については、担任を始め先生方の学習面、精神面でのきめ細かいフォローがあり、成功している。ただほとんどの生徒の来日期間が1年未満、特に新宿校は8月開校でほとんどの生徒が4, 5か月の日本語学習で受験をしている。東京都立高校は大多数が5教科受験のなか、当スクールの生徒が対応できるのは英・数・国プラス面接の高校なので、高校の選択枝は少なく、特に多摩地域は極端に少ない。都内のさまざまなボランティア団体・教職員組合とも連携し、積極的に東京都教育委員会への働きかけも行っているが、今年度は来日3年未満の外国籍生徒が受けられる在京外国人特別枠が2校から3校に増えたにとどまった。多摩にできなかったことで多摩地域では今年度も倍率が高く、1名は希望する高校につながらず、3回も受験して多摩の定時制高校に進学した。今後新たに来日する学齢超過の生徒がどれほどいるのかなかみきれない面があるが、そうした生徒にとって「たぶんかフリースクール」の存在意義は大きい。

高校進学については実績を残してきたが、高校に入った後中退する生徒も出始めている。高校につなげることがたぶんかフリースクールの一の目的であるが、同時に高校入学後の生徒へのフォローが今後の課題である。

④ 教育相談・入学相談

教育相談、入学相談を経て当スクールの生徒になる比率は年々高くなっている。なぜなら中学を卒業して来日した生徒が必要なのは毎日勉強ができる居場所であり、日本語指導であり、教科指導と高校受験情報であるからだ。また、今年度も学齢期の子どもでありながら、日本語を先に学ぶために入学した生徒もおり、高校につなげるだけでなく、中学校につなげるためのケアも年々多くなりつつある。

⑤ 日本語を母語としない親子のための高校進学ガイダンス

ガイダンスは地域が中心となり、虎の門・武蔵野・蒲田・広尾・八王子・品川の各地区で計6回の実施となった。解説及び個別相談は高校教員を中心に対応していただき、ガイダンス修了後にたぶんかフリースクール、CCS、ピナット、IWCなどのサポート団体に繋がるケースも増えた。ただ、開催地域が増えた分の負担増や財政的な裏付けが必要であり、行政の支援及び助成金の獲得が必要となってきている。

⑥ 子どもプロジェクト（土曜日の学習支援 15:30~17:30）

年々学習者、ボランティアともに数が増え、活性化している。日本語、英語や数学の支援に加え、入試における作文や面接の練習にも力を入れ、ボランティアの方々へ受験制度の説明を行うなどの情報共有にも力を入れた。受験生だけではなく、中学1, 2年生の参加も多く、子どもたちの居場所としても定着している他、卒業して高校生になった生徒が継続して勉強に来るケースも増えてきた。「学ぶ場」と「居場所」の両立という課題に関しては、受験生と非受験生とで勉強する教室をわけるなどの対応をしたが、勉強に集中するのが難しい子もおり、子どもたちとどう向き合うかも課題となっている。

外国人の家族と子育て支援事業（ファミリーサポート事業）

■親子日本語クラス

（文化庁『「生活者としての外国人」のための日本語教育事業』受託）

小学生と親（大人）を対象に、ボランティアとともに、日本語や教科などを基本は1対1で学習支援を行った。子どもクラスでは、最後の30分は全体学習で作文やクイズ、ゲームなどを通してともに学ぶ時間を作った。



日 時：毎週土曜日 13:00～15:00

参加者数：学習者 合計 25人※1回の学習者は5～10人

ボランティア登録総数 約 20人※1回の参加者は5～8人

内 容：

親（大人）クラス：

一人ひとりのニーズに合わせて、子育てや生活、仕事に必要な会話や漢字を中心とした読み書きなどをボランティアと一対一で学ぶ。

子どもクラス：

日本語が分からないことで遅れがちな学校の授業についていけるように、算数と国語を中心に、宿題を含めて学校での学習をサポートした。両親が仕事で忙しい子どもも多いため、色々な経験が出来るよう、児童館でのアートクラフトづくり参加、プラネタリウム見学、地域の商店街のお祭り、スイカ割り、クリスマス会などイベントも積極的に行った。

評価と課題

3年目となる「親子日本語クラス」では、課題とされていた広報に力を入れ、保育園、子育て支援センター、区役所、保健所等へ積極的な広報を行ったものの、親（大人）の新規学習者はあまり増えなかった。仕事の都合などで来られなくなる学習者も多く、昨年度から継続している学習者以外の定着が難しかった。

子どもクラスでは、今年度当初は継続して通ってくる子どもがボランティアと慣れてくる中で距離感をうまく保てず、遊びと勉強のけじめをつけることに苦労していたが、最終的には時間割りを設定して子どもに示したり、終わりの挨拶をしたりする中で学習に向かう姿勢が大幅に改善された。同じ境遇の仲間と出会え、安心して自分を出せる居場所となっている。

これまでは親を中心に、小学生以下の子どもも学べる場との位置づけだった。しかし、実態として小学生の学習者が一番多いことから、小学生の日本語・教科の学習支援を中心に、親も日本語を学んだり、学校のことで分からない時に相談したりできる場を含め、教室の方向性を見直す時期に来ている。

多文化共生のための人材育成事業

■ 講師派遣・研修受け入れ

国際交流協会、ボランティアセンター、行政、NPO、大学等などが行う研修会・講演・ワークショップに計 29 件講師派遣などを行った。また、足立区「外国人児童向け日本語ボランティア支援講座」(全 6 回)、練馬公民館「国際理解推進講座」(全 5 回)を受託した。ボランティア・インターンの受け入れについては、2 社より社員研修の一環として社員ボランティアを受け入れ、2 大学経由と個人の計 3 名のインターンを受け入れた。

■ 多文化共生のためのボランティア講座等

ボランティア希望者を主対象とし、月 1 回ボランティア講座を実施し約 90 名の参加があった。また、子どもプロジェクトのボランティアが中心となって、公立高校の受験制度に関する自主勉強会を開催した。

■ 地域と学校をつなぐためのボランティア養成講座

(文化庁『生活者としての外国人』のための日本語教育事業』受託)

外国にルーツを持つ子ども達を支援するボランティアの実践的研修として全 11 回の連続講座を実施した。

日本語が不十分なまま来日した子ども達のサポートに役立てるために、理論から実践まで、中学生以上の子ども達に焦点を絞って講座を展開した。講演では言語教育の知識をつけ、地域での取り組みを知るとともに、子ども達を取り巻く諸問題について専門家・実務家から話を聞いた。

実践では、通常の日本語教育を踏まえて学校や進学につながるサポートの方法を修得し、行われている学習支援にて実務研修を行った。



評価と課題

文化庁委託事業のボランティア養成講座は、これまで支援活動に携わってきた人が知識を深めてこれからの活動に生かせる内容になった。講義のみでなく、実践的なワークショップや実習を行うことにより、参加することに躊躇していた人が活動に踏み出す一歩となり、受講生のうちの何名かはボランティアとして定着した。

毎月 1 回のボランティア講座は毎回受講者が多く、講座を経てボランティアにつながるケースも多い。しかし、今年度は外部からの講師派遣の依頼件数が昨年度と比べて少なかった。

多文化共生のための情報提供事業

活動と理念に対する認知を高め、多くの方に賛同・支援をいただくため、ニュースレター、web、ブログ、メールマガジンなどの媒体を使用し、広報活動を行った。

■ ニュースレター(みんぐる)

活動報告を中心に、多文化共生に関する広報誌を年3回700部ずつ発行した。

■ ロゴの作成とwebサイトリニューアル

webサイトの内容・デザイン共に大幅に改定した。また、リニューアルに伴い、団体のロゴを作成した。

■ ブログ・ツイッター・フェイスブック

日々の活動報告を、ブログ、ツイッター、フェイスブックで行った。

ブログアクセス数約280件/日

■ メールマガジン(多文化 NEWS from Tokyo)

団体の活動内容等を配信(月1回・購読者:約700名)

■ メーリングリスト(多文化だより)

活動内容を報告する会員向けメルマガをML上に流しMLの活性化を図った。(月1回)

■ 「たぶんかフリースクール」ドキュメンタリー制作

2010年～2011年4月まで撮影したものを編集し、ドキュメンタリー作品を制作した。

評価と課題

今年度の大きな成果としてはwebサイトのリニューアルがあり、ボランティア講座への参加や生徒の親からの問い合わせなどにつながった。今後は従来のツールでの情報提供の強化と共に、ツイッターなどの新しいメディアをどう活用していくかが課題となる。

その他の特定非営利事業

■ 多文化ユース・フェスタ 2011 in 青山

日時: 2011年11月13日(日)

場所: 東京ウィメンズプラザ

UBS様、東京ボランティア・市民活動センター様との共催で、全国ボランティアフェスティバルの分科会の一つとして外国にルーツのある子どもたちの自主制作映画、歌、ダンス等を披露。参加者は200名を超え、音楽や映像を通して、子どもたちが自分を表現できる場を提供することができた。



2011年度 団体、企業等からの助成/寄付/協力

(敬称は省略しました)

■ GAP Inc.、ギャップジャパン株式会社

たぶんかフリースクールの「キャリア教育プログラム」に対する助成
Gap とバナナ・リパブリック店舗にて職業体験の実施と従業員のボランティア参加

■ UBS グループ

- ・「多文化ユース・フェスタ in 青山」への特別協賛、運営協力
- ・たぶんかフリースクールに在籍する低所得家庭の子どもたちのための教育支援基金への寄付
- ・英語で高校受験するたぶんかフリースクール生徒への「英語でのエッセイと面接教室」の社員ボランティアでの運営
- ・外国にルーツのある大学生のインターンシップによる人材育成プログラムへの寄付

■ 三菱UFJリース株式会社/東京ボランティア・市民活動センター

新入社員研修の一環として、たぶんかフリースクールへのボランティア活動で外国から来た子どもたちの高校受験のための多言語字幕付き面接対策 DVD 作成

■ BNPパリバ証券株式会社、BNPパリバ銀行東京支店

新入社員研修の一環としてたぶんかフリースクールへのボランティア参加

■ 公益信託オラクル有志の会ボランティア基金

たぶんかフリースクール新宿校開校のための備品・教材等への助成

■ 子どもの人権連

「日本語を母語としない親子のための進学ガイダンス」への助成

■ ボイスペディア

当センターホームページへの広告掲載

2011 年度決算報告書

2011 年度 特定非営利活動に係る事業会計収支決算書

2011 年 4 月 1 日から 2012 年 3 月 31 日まで

1、収入の部			2、支出の部		
科目	予算額	決算額	科目	予算額	決算額
1.会費・入会金収入			1.事業費		
会費収入	1,300,000	1,016,000	教育事業支出	31,340,000	29,109,406
			子育て支援事業支出	1,300,000	1,294,584
2.事業収入			人材育成事業支出	2,000,000	1,867,443
教育事業収入	25,600,000	23,995,058	情報提供事業支出	2,000,000	1,708,921
子育て支援事業収入	1,350,000	1,402,870	その他非営利事業支出	0	195,511
人材育成事業収入	2,660,000	2,605,848	事業費 計	36,640,000	34,175,865
情報提供事業収入	350,000	167,290			
その他非営利事業収入	0	431,943	2.管理費		
事業収入 計	29,960,000	28,603,009	給料 手当	3,640,000	3,128,519
			法定福利費	1,800,000	1,700,491
3.補助金等収入			通信費	50,000	227,838
助成金収入	1,800,000	5,187,459	水道光熱費	520,000	195,534
			旅費交通費	50,000	198,497
4.寄付金収入			渉外費	240,000	84,433
寄付金収入	5,000,000	4,115,655	租税公課	800,000	910,600
			減価償却費	250,000	545,590
5.その他			その他管理費	250,000	197,751
受取利息収入	1,000	2,408	管理費 計	7,600,000	7,189,253
6.その他資金収入			3.その他資金支出		
繰入金収入 (引越基金より繰入)	2,691,000	2,733,000	教育援助基金拠出		2,231,180
当期収入合計(A)	40,752,000	41,657,531	当期支出合計(B)	44,240,000	43,596,298
			当期収支差額(A)-(B)	-3,488,000	-1,938,767
			前期繰越収支差額(C)	11,230,766	11,230,766
			次期繰越収支差額(A)-(B)+(C)	7,742,766	9,291,999

2011 年度 特定非営利活動にかかる事業会計貸借対照表

2012 年 3 月 31 日現在
[税込] (単位: 円)

資 産 の 部		負 債 ・ 正 味 財 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】		【流動負債】	
(現金・預金)		未 払 金	516,580
現 金	138,601	預 り 金	243,699
普通 預金	7,514,706	流動負債 計	760,279
現金・預金 計	7,653,307	負債の部合計	760,279
(売上債権)		正 味 財 産 の 部	
未 収 金	4,473,500	【基金 1】	
売上債権 計	4,473,500	教育援助基金	259,370
(その他流動資産)		基金 1 計	259,370
仮払消費税	415,500	【基金 2】	
その他流動資産 計	415,500	引越基金	3,384,042
流動資産合計	12,542,307	基金 2 計	3,384,042
【固定資産】		【正味財産】	
(有形固定資産)		正味 財産	9,291,999
建物附属設備	265,055	(うち当期正味財産増加額)	△ 1,938,767
什器 備品	228,328	正味財産 計	9,291,999
有形固定資産 計	493,383	正味財産の部合計	12,935,411
(投資その他の資産)			
敷 金	660,000		
投資その他の資産 計	660,000		
固定資産合計	1,153,383		
資産の部合計	13,695,690	負債・正味財産の部合計	13,695,690

2011 年度 特定非営利活動にかかる事業会計財産目録

2012 年 3 月 31 日現在
[税込] (単位：円)

《資産の部》		
【流動資産】		
(現金・預金)		
現 金	138,601	
普通 預金	7,514,706	
三井住友銀行	(2,566,757)	
三菱東京UFJ銀行	(147)	
ジャパンネット銀行	(2,786,731)	
郵便振替口座	(2,161,071)	
現金・預金 計	7,653,307	
(売上債権)		
未 収 金	4,473,500	
売上債権 計	4,473,500	
(その他流動資産)		
仮払消費税	415,500	
その他流動資産 計	415,500	
流動資産合計		12,542,307
【固定資産】		
(有形固定資産)		
建物附属設備	265,055	
什器 備品	228,328	
有形固定資産 計	493,383	
(投資その他の資産)		
敷 金	660,000	
投資その他の資産 計	660,000	
固定資産合計		1,153,383
資産の部 合計		13,695,690
《負債の部》		
【流動負債】		
未 払 金	516,580	
預 り 金	243,699	
流動負債 計		760,279
負債の部 合計		760,279
正味財産		12,935,411

監査報告書

特定非営利活動法人多文化共生センター東京の 2011 年度決算について、監査の結果、事業は適正に実施され、収支計算書は一般に公正妥当と認められる会計原則に基づいて作成されていることを認めます。

2012 年 5 月 19 日

監事 鴻森大介

2011 年度役員

代表理事	王	慧槿
専務理事	柴山	智帆
専務理事	飯田	秀夫
理事	李	炫澈
理事	風間	晃
理事	鈴木	江理子
理事	田村	太郎
理事	原田	麻里子
理事	福田	和久
理事	松尾	沢子
理事	多田	佳明
理事	小林	普子 (2012年2月8日辞任)
監事	鴻森	大介

2012 年度事業計画

外国にルーツを持つ子どもたちのための教育事業

■たぶんかフリースクール

目的

日本の中学校に入れず、学ぶ場や居場所のない子どもたち（学齢超過生と中学卒業者）や、荒川区の小学校高学年及び中学生に対して、毎日通えて日本語と教科を勉強できる学びの場と居場所を提供する。また、不就学や不登校の子どもたちを公立学校就学へ繋げるための「虹の架け橋事業（定住外国人の子どもの就学支援事業）」（以下架け橋教室）文部科学省の拠出を受けた国際移住機関（IOM）より受託し実施する。最終的には高校進学につなげることを目的とし、外国にルーツを持つ子どもたちが教育を受ける権利を享受できる環境の実現をめざす。

事業内容

小学校高学年、中学生、学齢超過、不就学、不登校の子どもたちへの日本語及び教科学習の学習を保障するとともに、居場所としての役割も果たす。多様化する子どもたちのニーズに応じて、以下の通り多数のクラスを開講する。

◆朝クラス： 9:00～12:00 週 4 日（本校）

荒川区「ハートフル日本語適応指導（通室による初期日本語指導）」対象生徒

◆全日クラス： 10:00～15:50（受験前は 16:50 まで） 週 4 回（本校・新宿校）

主に学齢超過生及び母国で中学を卒業した生徒対象、義務教育段階の不就学や不登校の子どもたち
内容：日本語・教科の学習、受験サポート、居場所の提供

※学齢超過生及び母国で中学を卒業した生徒対象クラス：

午後の授業の 3 時間のうち 2 時間（受験前は 4 時間のうち 3 時間）は「虹の架け橋教室」で運営。

※義務教育段階の不登校・不就学の生徒対象クラス：

文部科学省の拠出を受けた国際移住機関（IOM）を受託し、最大 5 時間「虹の架け橋教室」で運営。

◆夜クラス： 18:00～20:10 週 2～4 日（本校）

主に中学 3 年生と荒川区「ハートフル日本語適応指導（補充学習指導）」対象者（小学 5 年生～中学 3 年生）

時間：週 4 回（18:00～20:10）内容：日本語（国語）・教科の学習、受験サポート

◆通信制代々木高校 多文化共生コース（本校）

外国にルーツのある子どもたちで、高校中退や母国で高校 1、2 年生を修了者対象に、通信制高校での学習をサポート。

事業目標

小学校高学年、中学生、学齢超過、不就学、不登校の子どもたちへの日本語及び教科学習の学習を保障するとともに、居場所を提供する。不登校・不就学の子どもたちは公立小中学校への復学をめざし、高校進学を希望する生徒は高校につなげることを目指す。

■キャリア教育プログラム

Gap.inc 様からご支援を受け、たぶんかフリースクール生徒が将来の夢を考え、次の進路に実際につなげる「キャリア教育プログラム」を実施する。このプログラムにより、担任を採用し、以下のキャリアイベントを行うとともに、生徒や保護者との面談（10月二者面談・12月三者面談）、進路に関する作文のほか、高校見学や説明会への生徒の引率、日々の生徒対応、受験指導などきめの細かいサポートを行う。

■アクティビティ

フリースクール講師・ボランティア、企業等のご協力を頂き、校外学習やイベントなどのアクティビティを行う。

■教育・進学相談

当センター及び進路ガイダンス実施時に、年間 70 件程度の教育、進学に関する相談に対応し、外国にルーツを持つ親子へのサポートを行う。

■たぶんか子ども基金

「たぶんかフリースクール」は授業料を徴収して運営しているが、正規の学校ではないために授業料には消費税がかかってしまい、学生割引のある通学定期も使えない。授業料や教材費、定期代等を考えると 1 年間で 40 万円程度必要だが、外国人は労働市場においてより不安定な立場に置かれており、さらにリーマンショックや震災の影響もあり、経済的な理由から授業料を負担することのできない家庭が年々増えている。そこで、「たぶんか子ども基金」により、経済的な理由からたぶんかフリースクールに通いたくても通えない生徒へ授業料の一部を支援することで、より多くの子どもたちに学ぶ機会を提供する。100 万円を目標に「たぶんか子ども基金」への寄付を幅広く募り、20 名程度の子ども達をサポートする。

■ 子どもプロジェクト

目的

以下の2つの活動を柱とし、子どもたちへの力づけ（エンパワメント）を行っていく。

事業内容

◆ ボランティアによる学習支援 土曜日：15：30～17：30

ボランティアベースでの教科と日本語の学習支援を、週1回行う。基本的にはボランティア中心の運営で、マンツーマンによる指導を行う。

◆ 子どもたちの居場所づくり

学習以外でも、同じ状況の子ども同士が交流する居場所づくりを目指す。

事業目標

年間30人程度の子どもに対して、ボランティアによる教科支援と居場所づくりを行う。

■ 日本語を母語としない親子のための高校進学ガイダンス

目的

日本の教育事情にうとい日本語を母語としない親子のために日本の高校について、また進路・進学・教育制度全般について理解を深めてもらうことをめざす。

事業内容

東京都内で区部・市部に分け、多言語による逐次通訳の体制を組み、高校進学についての説明会と教育相談を年6回実施する。通訳は英・中・韓・スペイン語・韓国語・中国語の6言語を予定。当センターの他、「カトリック東京国際センター」「多文化共生教育研究会」「CCS 世界の子どもと手をつなぐ学生の会」「武蔵野市国際交流協会」「ピナット」「八王子国際協会」「IWC」「OC Net」で実行委員会を構成し、うち2回の事務局を当センターが担う。

事業目標

合計200名程度の日本語を母語としない親子に対して、進路、教育制度についての情報を提供する。ガイダンス後、個別でのフォローを実行委員会の団体が行い、高校進学までのサポートを行う。

外国人の家族と子育て支援事業（ファミリーサポート事業）

■親子日本語クラス

目的

外国出身の親と子ども双方が、地域住民（ボランティア）と日本語を通して交流することで、日本語習得支援と居場所づくりを行う。また、日本語教室での交流などを通じて、親子日本語クラスの参加者や、フリースクールの保護者を中心に、生活上の様々な困難や家族の問題に対してサポートを行う。

事業内容

◆親子日本語クラス 土曜日 13:00～15:00

対象：外国にルーツを持つ小学生とその親※

※「たぶんかフリースクール」生徒の保護者など、小学生以上の子どもを持つ親や、子どものいない大人も含む

内容：ボランティアとの1対1の学習や全体学習を通して、日本語や教科の学習支援を行うとともに居場所づくりを目指す。また、今年度はフードバンク様の「われ米プロジェクト」に参加して、群馬県邑楽郡での田植え～稲刈りを通したお米づくりの体験活動に参加する。その他も、親が仕事で忙しい子どもが多いので、様々な体験ができるようアクティビティを行う。

事業目標

外国にルーツを持つ子ども10人程度に対して、ボランティアによる日本語や教科の学習支援と居場所づくりを行なう。

多文化共生のための人材育成事業

目的

多文化共生に関する研修への講師派遣、活動に関わるボランティアやフリースクール講師を対象とした研修、ボランティア講座等により、多文化共生社会を担う人材育成を行う。

事業内容

◆講師派遣

国際交流協会や行政などが行う多文化共生関連の研修に対して40件程度の講師の派遣を行う。

◆多文化共生のためのボランティア講座

多文化共生センター東京の活動やボランティア活動に関心のある方を対象に、月1回程度の講座を行う。内容は基礎的な知識などを中心に行う。

多文化共生に関する情報提供事業

目的

活動と理念に対する認知を高め、多くの方に賛同・支援を頂くため、web、ブログ、ツイッター、紙ベースの広報誌等多様な広報媒体を使用し、広報活動を行う。当センターの活動と共に外国にルーツを持つ子どもたちの状況や多文化共生への関心を社会に広める。

事業内容

◆Web

昨年度完成したリニューアルサイトの更新を定期的に行い、当センターの活動への共感を広げる。また、中国語と英語のページを作成する。

◆ブログ・ツイッター・フェイスブック

ブログ、ツイッター、フェイスブックを活用し、当センターの活動報告を頻繁に行う。

◆メールマガジン(多文化 NEWS from Tokyo)

外国人関係ニュース、イベント、当センターの活動内容などのメルマガを原則毎月配信する。

◆メーリングリスト(多文化だより)

活動内容を報告する会員向けメルマガを毎月ML上に流しMLの活性化を図る。

◆ニュースレター(みんぐる)

当センターの活動報告を中心に、多文化共生に関するテーマの広報誌を年4回発行する。

◆多言語情報提供

当センターで作成した多言語情報など、外国人にとって必要な情報を多言語で提供する。

その他の特定非営利事業

■多文化ユース・フェスタ

今年度も UBS 様、東京ボランティア・市民活動センター様との共催で、外国にルーツを持つ子どもたちが音楽やダンス等を通して自己表現できる場をつくる。

その他

■荒川区旧真土小学校閉鎖に伴う活動拠点探し

2008年より荒川区教育委員会のご厚意で、旧真土小学校の教室をお借りしています。おかげさまで事務所、たぶんかフリースクール、ハートフル日本語通室及び適応指導、子どもプロジェクト、親子日本語クラスなど様々な事業を展開させていただき、多くの「外国にルーツを持つ子どもたち」がここから巣立っています。しかし、東日本大震災の影響もあり耐震性のない本校舎は2012年度末で閉鎖が決まりました。今年度は、新たな活動拠点探しをすることになります。

2012年度予算

2012年度 特定非営利活動に係る事業会計収支予算書

2012年4月1日から2013年3月31日まで

[税込] (単位:円)

科	目	金 額	
(経常収支の部)			
I 経常収入の部			
1	会費・入金収入		
	会費収入	1,150,000	1,150,000
2	事業収入		
	(1) 外国にルーツを持つ子どもたちのための教育事業	33,548,000	
	(2) 外国人の家族と子育て支援事業	100,000	
	(3) 多文化共生に関する情報提供事業	50,000	
	(4) 多文化共生に関する人材育成事業	2,000,000	
	(5) その他非営利活動事業	400,000	36,098,000
3	補助金等収入		
	助成金収入	1,600,000	1,600,000
4	寄付金収入	4,500,000	4,500,000
5	受取利息収入	2,000	2,000
6	基金からの繰入金	924,000	924,000
	当期収入合計		44,274,000
II 経常支出の部			
1	事業費		
	(1) 外国にルーツを持つ子どもたちのための教育事業	33,797,000	
	(2) 外国人の家族と子育て支援事業	100,000	
	(3) 多文化共生に関する情報提供事業	300,000	
	(4) 多文化共生に関する人材育成事業	1,500,000	
	(5) その他非営利活動事業	200,000	35,897,000
2	管理費		
	給与手当	1,970,000	
	法定福利費	1,507,000	
	通信費	300,000	
	水道光熱費	200,000	
	旅費交通費	100,000	
	渉外費	240,000	
	租税公課	1,120,000	
	減価償却費	400,000	
	その他管理費	250,000	6,087,000
	当期支出合計		41,984,000
	当期収支差額		2,290,000
	前期繰越収支差額		9,291,999
	次期繰越収支差額		11,581,999

2012 年度役員

代表理事	王	慧槿
専務理事	柴山	智帆
専務理事	飯田	秀夫
理事	李	炫澈
理事	風間	晃
理事	鈴木	江理子
理事	田村	太郎
理事	原田	麻里子
理事	福田	和久
理事	松尾	沢子
理事	多田	佳明
監事	鴻森	大介



認定NPO法人

多文化共生センター東京

Multicultural Center TOKYO

認定 NPO 法人多文化共生センター東京

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里 1-5-8 3階

TEL/FAX : 03-3801-7127 tokyo@tabunka.jp